



- 1 雪の林 1993年 53.0×73.0 cm  
 2 春の河 1997年 34.2×49.4 cm  
 3 雪の街 2004年 35.4×49.4 cm  
 4 千曲川初夏 2003年 30.0×39.2 cm  
 5 雪国のお店 1994年 39.0×55.0 cm  
 6 浴衣 2002年 74.8×54.6 cm  
 7 雨水 2003年 38.9×54.8 cm  
 8 人形とランプ 1996年 49.3×34.7 cm  
 9 赤い布の静物 2004年 48.7×67.1 cm



令和5年度 飯山市美術館企画展  
**岩上 隆 静**  
 I W A K A M I R Y U J O  
**没後10年展**

水彩画に込めた  
故郷への想い



岩上隆静(1930-2013)略歴

- 1930 長野県飯山市秋津地区に生まれる。  
 1951 石井柏亭の水彩画講習会を受け画道に入る。  
 1955 国画会に初出品入選。以後、宮坂勝に支持しながら国展に出品を続ける。  
 1963 新具象作家協会の結成に参加する。  
 1965 すべての美術団体、美術グループから離れ無所属となる。  
 1979 ヨーロッパ各地に遊ぶ。以後、個展を中心発表を続ける。  
 1993 みずゑ会主宰。以後、2013年まで継続。  
 1998 岩上隆静展がギャラリー82で開催される。  
 2002 岩上隆静展が飯山市美術館で開催される。  
 2013 逝去(享年83歳)



岩上隆静先生との思い出を語る会

日時： 8月5日(土)  
 14:00～(1時間程度)

会場： 美術館ロビー

内容： 岩上先生と親交のあった方々から岩上先生との思い出を語っていただきます。

※ 事前の申し込みは不要ですので、お気軽にご参加下さい。

\* ご参加いただくには入館料を申し受けます。

長野県飯山市出身の画家岩上隆静の画業において、教職を終えた1989年から最晩年まで精力的に制作された水彩画は今なお人々を惹きつけてやまない。岩上の水彩画の魅力は的確なデッサン力と大気中の光を捉えた柔らかな色調にあるが、何と言っても瑞々しさ溢れる透明水彩の醍醐味を余すことなく感じさせてくれるところにある。

岩上作品の中で常に表舞台に立つのは風景画であった。特に北信濃の風景に対しては並々ならぬ愛着を持って描き続けた。生まれ育ち慣れ親しんだ郷土の自然が彼の美意識を育んだことを思えば創作活動のテーマとしたことに不思議はない。岩上によれば、風景を描くことは風を描くことだという。季節の風、その時の風である。岩上作品に『残雪』『水ぬるむ』『早春』など季節の移ろいを表す題名をしばしば見るのは、そうした一瞬を季節の典型と考え、風をとおして時の流れを見ているのだろう。

今回、没後10年の節目に「郷土への想いが込められた風景画」はもちろん、岩上の持ち味が充分に發揮されている静物画なども合わせて約100点を展示し、改めて岩上の画業をたどりたい。

**飯山市美術館**

〒389-2253 長野県飯山市大字飯山  
 1436-1 TEL/FAX 0269-62-1501  
 URL <http://www.city.iiyama.nagano.jp/>

